

共 に 生 き て I

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

小さな命の キセキ



15

登山 万佐子

敏のせいで大嫌いな帽子も、みんなと一緒にだちゃんとかぶっています。離れて過ごして、過保護になり過ぎていた自分に気が付きました。

これまで会った療育の先生方の言葉で大切に行っていることがあります。子どもにとって「遊ぶことは生きること」、

「ちょっと頑張れば達成できる目標設定」「スマール・ステップ」の繰り返し、です。何げ

ない遊びの中に発達に必要な要素がたくさん含まれているとは、長男(14)が幼いころは考えもしませんでした。娘は発達がゆっくりで視力も弱いからこそ、いろいろな遊びや経験をさせたいと強く思うようになっていました。

低出生体重児(未熟児)の家族会には、家の中で母親と2人きりで過ごしていた子ども来ます。お母さんは緊張した表情ですが、お子さんはいろいろなことに興味を示し、遊び始めます。年齢も状況も違

う子どもたちと関わる中で、表情が乏しかった子が笑顔を見せ、社会性がどんどん育っていくのが分かります。

初めて一人で立った、初めての一步が出たという「初めての瞬間」に立ち会うことも何度もあります。そんなわが子にお母さんの表情がだんだんとほころび、他のお母さんと話す心の余裕が生まれるようになります。

子ども同士遊び育つ

わが子が2歳を過ぎると、幼稚園入園について考え始める人も多いと思います。私も長女綾美(8)が2歳を過ぎたころから、1対1の療育だけでなく、同年齢の子どもたちと過ごさせたいと考えました。2歳9カ月で児童発達支援センターの集団療育に通い始め、3歳半で近くの市立保育所に入所しました。

児童発達支援センターは週2回、母子同伴で通園。娘と同じように運動面の発達に遅れがある子、医療ケアが常時必要な子のクラスでした。集団療育は親が思いつかないような遊びや工夫があり、家でまねしたこともありました。それ以外の日は、私と離れ

「たら、れば」ばかりの毎日。でも、娘は楽しそうでした。脳性まひで手足が自由に動かず、一人でできないことはかりでしたが、他の子どもと一緒にいろいろ経験させてもらいました。保育参観に行くと、危なっかしいものの、動かせる手でコップを持ち、一人でお茶を飲んでいるではありませんか。驚きました。触覚過

でも、娘は楽しそうでした。脳性まひで手足が自由に動かず、一人でできないことはかりでしたが、他の子どもと一緒にいろいろ経験させてもらいました。保育参観に行くと、危なっかしいものの、動かせる手でコップを持ち、一人でお茶を飲んでいるではありませんか。驚きました。触覚過



保育所の夏祭りで見せる4歳のころの綾美ちゃん(中央)

(「Nつ子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)

ところが、発達の遅れ、眼鏡やコンタクトレンズの使用、在宅酸素療法などを理由に幼稚園や保育所などの入園を断られた人もいます。子どもたちにとって、子ども同士で遊び、経験を重ねる場がその後の成長のためにどれほど大切か。その環境を整えるのが大人の役割だと思っています。